

経産省前テントひろばニュース

第276号

テント強制撤去から2622日 原発再稼働糾弾！

編集・発行

テントひろば運営委員会

## 汚染水の海洋放出阻止「請戸川河口テントひろば」お披露目される!!

10月28～29日、福島県浪江町で「請戸川河口テントひろば」のお披露目会を開催しました。「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」と約束しながら、漁民との約束を反故にし、多くの市民と世界中からの反対の声があがる中、すでに2回の汚染水海洋投棄（3回目、11月2日予定）。この政府の暴挙を断じて許すことはできません。私たちはこれを一日も早くストップさせるために、魚を釣ってその汚染状況を自ら測っていきます。測定には、東京大学准教授・小豆川勝見さんの協力を得られることとなりました。また、「ひろば」で多くの人とつながり、闘い、学び合う場所としていきます。 記：黒田節子／「ひろば」共同代表



宣伝が足りない中で、お披露目会には全国各地から43名もの参加があり、この問題についての注目度と深刻さが表れていると感じます。お披露目会開始と共に、日本フィルで40年間トロンボーンを吹いてこられた伊波睦さんの「鎮魂の曲」が、請戸川河口に響きわ

たりました（写真上）。ステージは堤防の上という、いわばワイルドな海浜で、正式な演奏会用礼装に着替えての伊波さん、大変ありがとうございました。

合間にもたくさん演奏していただき、イベント全体を盛り上げていただきました。12年前ここで何があったのか、この堤防を越えて請戸小学校を、そして集落を襲った津波とはいったいどのようなものだったのか…。打ち寄せる波を見つめながら「決して忘れない、忘れてはいけない」との思いを新たにしたのは、きっと私だけではなかったでしょう。

共同代表の吉澤正巳さん・三上治さんからの主催者挨拶では、ご二人の主張と個性を存分に発揮していただきました。その後バーベキュー

もいい具合に焼け始めて、各地・各人からの発言。前日27日にコンクリートブロックで造った三つのかまどをそれぞれ自由に囲みながら、ハンドマイクもフリー。どの顔も頑張っている人、大切なひとたち。暖かい雰囲気の中で、うれしい話が出ました。吉澤さんが生涯の伴侶をみつけられたとのことで、その紹介があったのです（写真右）。

「3.11以来ひどいことばかりだけど、ひとつだけ良かったことがある。それは人との出会いだ！」と吉澤さん。まったく同感。たくさんの良き人との出会いで、私たちは頑張れているよね～。雲走るスカイブルー、踊る白波、トロンボーン、そして、遠く東電F1（エフイチ）のクレーンが見える請戸川河口でのひとときはきっと忘れられないものとなるでしょう。



今後、なるべく週末常駐体制を作り（超安・民泊あり）、地域の方々にも参加してもらえらるようなイベントや学習会をどんどん企画し、お知らせしていきます。皆さん、一緒にやっていきましょう。

「浪江に来てくんつエ！」

写真提供：石上健二さん、黒田節子

## ガザでの戦闘に国際的な反戦運動を

1947年国連パレスチナ分割決議から76年、そしてイスラエル入植を許容し、パレスチナ人をヨルダン川西岸、ガザ地区に押し込め隔離する「オスロ合意」から30年を経過した。2023年10月7日、パレスチナ民衆の意志は青空監獄にされていたガザ地区から分離壁を越え、イスラエルの不法入植地に対する攻撃＝「アル・アクサ洪水作戦」を敢行した。この攻撃はイスラエルが、アル・アクサ寺院も含む聖地エルサレムとその近郊の中立化を破壊しイスラエル化を強化し、パレスチナ住民圧殺を強行し始めたことに対する反撃の行動であり、パレスチナ民衆、武装勢力、ハマースなどの共同作戦である。

30日現在、ガザ地区ではその半数が子供たちである8,000人を超える死者が出ており、住宅17万世帯の破壊が行われ、難民化を強制されている。パレスチナ民衆は、その抑圧の長い歴史から、「人道支援」「即時停戦」「テロとの戦い」とのごまかしのキャンペーン下で、世界から見捨てられてきた。そのデマゴギーには、最早、パレスチナの人々だけでなく、世界の民衆も騙されはしない。そして、日本政府は、今アメリカに追随し、安倍政権時に露骨なイスラエルとの軍事協力、技術交流を推し進め、日本の軍事大国化と沖縄の戦場化を推し進めている。

一方で石油欲しさにアラブ世界に媚を売りながらも、アメリカ追従、イスラエル支援の本音は明らかにになってきている。上川法相のイスラエル訪問で「テロ組織ハマースの攻撃を非難する」という立場表明や国連での対応は、パレスチナ抹殺、イスラエル支援の本音に他ならない。私たちは、この日本政府を批判し、パレスチナ民衆とともに抑圧と虐殺に対する抗議の声を大にしていこう！

### イスラエル大使館緊急抗議行動

11月3日(金・休日) 13時30分 JR市ヶ谷駅前集合

14時～ イスラエル大使館前 抗議行動

呼びかけ団体 JAPAC(日本パレスチナ・プロジェクト・センター)・オリオンの会

### 中国文化財返還運動を進める会より/集会のご案内

日時:2023年11月11日 14:00～17:00(13時半開場)

場所:日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス(小ホール)

講師:井上 亮(日本経済新聞社編集局 編集委員)

演題:知られざる皇居の慰霊施設「御府」

日本の水準原点が設置されている「国会前庭」の北地区から桜田濠を隔てて鬱蒼と茂る緑地を臨むことができる。このエリア(吹上地区)には、かつてゴルフ場もあったという。その南端部に相当する場所に「御府」と呼ばれる建物が存在していた。「存在していた」と過去形で記すのは、正確ではない。なぜならば、「御府」の「戦利品収蔵庫」という本来の機能は現在失われているが、「御府」である建物そのものは木造倉庫群(Wikipediaによる)として現存しており、建物の内部に収蔵されていた様々な「戦利品」は失われたが、建物の外に設置された「唐碑亭」および「鴻臚井碑」などは現存しているからである。しかし「鴻臚井碑」を含めて、どのようなくもの>が、どれほど現存しているかについては定かではない。なぜならば、ここ数十年の間、これらの現状を確認することができないからである。正確に言うと、皇族あるいは宮内庁職員

などの限られた関係者以外に誰も「御府エリア」に立ち入ることができないからである。「御府」に所在する「鴻臚井碑」は、国有財産である。しかし日本国の主権者である国民も、国民の代表者である国会議員も「鴻臚井碑」を見ることすらできない。まことに理不尽な事態である。

「御府に収蔵されていた膨大な戦利品・記念品はどうなったか。これらは「輝ける戦勝」における「栄光の記念品」であったが、敗戦によって「略奪品」に一転する。連合軍最高司令部(GHQ)は日本の軍国主義化を進めるため、全国にある戦利品の一掃を日本政府に指示した(井上 亮 2017『天皇の戦争宝庫』207頁)。そして1946年5月から6月に収蔵品は処分(収蔵された戦利品は関係各国に返還:Wikipedia)された。しかし処分された収蔵品はどれだけあったのか、そのリスト(目録)は一切残されていない。ただただ戦争犯罪の痕跡を一刻も早く消去させようと、慌ただしく処分がなされたことが伝わるだけである。これは同じような性格の靖国神社における戦利品処分とも共通する。

靖国神社に現存する戦利品である大鳥居脇の「石獅子」を紹介する文献には、「靖国神社陳列戦利品」として「獅子石」と「荷車」の絵が描かれている(東海林 次男 2022『靖国神社・山縣記念館所在の狛犬について』「中国文化財の返還-私たちの責務-」15頁)。これは当時の中国の絵入新聞「点石齋画報」に描かれたものと同じと思われるが(鄧捷 2022『中国側の資料から見た靖国神社最古の狛犬』「中国文化財の返還-私たちの責務-」32頁)、ここで描かれた荷車は、振天府の付属施設として紹介された「支那車置き場」に置かれていた「支那車」ではなかったか(井上 同:44頁)。あるいは「遼東半島の金州城の鎧門」として紹介された「戦利品」(井上 同:42頁)は、現存するのだろうか? 北洋艦隊の拠点であった威海衛の海軍公署から持ち込まれたとされる「長さ約22mの旗竿」は、現存するのだろうか? こうした様々な疑問が、「立ち入ることができない」「実際に確認することができない」という一点で、解決していない。

過去の軍国主義の残存物が引きずる「暗い闇」が、未だに東京の一角を覆っている。広く世論を喚起して、こうした膠着した事態を打開するためにも、私たちは「天皇の戦争宝庫」を通じて知ることのできた事柄を、さらに広く多くの人たちと共有して、「暗い闇」を少しでも払拭して、「あるべきくもの>を、あるべきく場>へ」戻すことにつなげていきたい。

### 集会・行動予定

★11月8日(水) 12時～規制委抗議行動

◎原子力規制委員会前(毎週水曜日)

★11月10日(金) 経産省正門前抗議行動(毎日)

◎経産省前の座り込み行動は、平日:12時-16時(月～木)、13～17時(金)、土・日・休日:12時-15時

★11月12日(日) 脱原発青空テントひろば川柳句会

12時～ 経産省正門前 主催:乱鬼龍

### ＜経産省前テントひろば＞

住所:〒105-0003 港区西新橋 1-21-8 新虎ビル2F  
 ・電話:070-6473-1947  
 ・郵便振替口座=00160-3-267170  
 ・口座名義=経済産業省前テントひろば  
 WEB:<http://tentohiroba.tumblr.com/>  
 Mail address:tentohiroba@gmail.com